

平成22年度 第2回 水と緑の森づくり会議 旅のしおり

とき 平成22年10月29日(金)

スケジュール

時間	項目	内容
7:30	集合 移動	武道館前乗車：水森委員 県職員
9:30		大田市駅乗車：水森委員 県職員 JR 益田(7:44)→浜田(8:33)→大田市(9:29)
9:35		大田市森林組合 乗車 水森委員 森林組合
11:35	間伐現場	大田市三瓶町宇山地内(大田市森林組合実施) 高性能な林業機械が伐倒した木材 ^{ぼっとう} の処理をする現場視察
12:00 12:40	昼食	大田パストラル
12:40 13:40	意見交換	大田集合庁舎 第1会議室 実施状況調査の結果 H23 要求の考えかた みーも彼女の名前審査
13:40	七色館	緑と水の連絡会議 七色館チップボイラー視察 大田市大田町大田地内
14:40	ふろしき山	緑と水の連絡会議 ふろしき山での活動視察 大田市富山町久谷地内
15:40	解散	大田市駅下車 水森委員 県職員 JR 大田市(15:53)→浜田(16:41)→益田(17:15) 大田集合庁舎下車 大田市森林組合下車
17:40	解散	武道館前下車：水森委員 県職員

参加者名簿

水と緑の森づくり委員

部 門	所属等	氏名
公募		おおた すみこ 太田 純子
公募		おおたに さとみ 大谷 怜美
公募		おがわ やすあき 小川 泰昭
公募		かねさき こういち 金崎 孝一
ボランティア	NPO法人コアラッチ	つねくに らみえ 常國 文江
教育	島根県小学校長会	まつもと かずし 松本 一志
森林経営	指導林家	わかつき みつお 若槻 満男

事務局

職名	氏名
林業課長	よしおか のぶお 吉岡 延夫
管理監	ふじた たかし 藤田 隆
林業普及専門幹	いとう たかお 伊藤 隆雄
企画員	はやし まさひろ 林 真弘
主任	すぎもと しんや 杉本 真矢
主任	おおいし たかひさ 大石 貴久
税務課課税グループリーダー	かまたに まさらみ 鎌谷 正文
主任	ふくま ひとみ 福間 仁美
西部県民センター課税第1グループ主事	いじみ まこと 伊路見 真琴

平成 22 年度第 2 回水と緑の森づくり会議（意見交換）次第

とき 平成 22 年 10 月 29 日

場所 島根県大田集合庁舎

林業課長あいさつ

議題

- 1 みーもくん彼女の名前審査
- 2 水と緑の森づくり事業実施状況調査結果報告
- 3 平成 23 年度水と緑の森づくり事業予算要求の考え方
- 4 その他



島根県水と緑の森づくり事業イメージキャラクター「みーもくんの彼女」名前候補一覧

人気順位	No.	名称	合計	理由
1	10	まーもちゃん	6	彼女のお腹にはセーブフォレストとあり、それを元にして森を守るキャラクターだと考えました。守りたい森がここにある・・・みーもくんに響きを合わせて
	9		5	森を守る女神だから
2	20	みーなちゃん	7	水と緑を照らす太陽が、同時にみんなを優しく照らしていることから「みーなちゃん」にしました。
	17		1	みー美しいふるさとの自然を保全するため なー仲良く協力し守るネットワークを広げよう
3	3	さーにーちゃん	5	明るく日を照らす意味です。
4	27	ゆーもちゃん	4	私もあなたも水と緑の森づくりに対しての意識を持てられればよいかな？と思いました。
4	5	てらすちゃん	4	みーもくんの彼女さんは太陽のイメージをもって生まれたとのことなので、水と緑を「照らす」ということで「てらすちゃん」という名前を考えました。また、日本の神話の世界でも最高神である天照大神(あまてらすおおみかみ)は太陽の神様であり、神話と密接な関係がある島根県において「てらす」はもってこいの名前であると考えました。
4	14	みーさちゃん	4	水と緑のみと太陽のたをとってサンからとって
7	4	てーらちゃん	3	水と緑をあたかな光でゆったりとやさしく照らす太陽をイメージしました。
8	2	きらりちゃん	1	太陽がモチーフなので、いつもきらきらと輝く笑顔を振りまいている様子や明るく元気いっぱいみんなを照らし手ってくれる様子をイメージしました。
8	22	美雲ちゃん(みくも)	1	美しい水や森など自然がうかぶ 雲も欠かせないか思い かわいらしくみくもちゃんにします。
8	23	みのりちゃん	1	水と緑の森づくりへの取り組みが、やがて美しく自然にあふれた実りある島根へとつながるよう思いを込めて。

平成22年度みーもの森づくり事業進捗状況一覧表 実行型

番号	取組の名称	平成22年度の事業概要	実施団体	実施(予定)状況	完了予定	交付決定額(円)	参加予定人数
1	松山の再生と花仙山椿が咲く森づくり活動	●作業路368m、地拵え1ha、植栽1,000本	山陰中央新報社	・地拵え中 ・11/6植樹イベント	3.31	1,679,690	200
2	心の故郷いやしの森	●竹林0.2ha伐採、ヤマザクラ400本植栽	島根県森林土木技術協会	・11月地拵え、植林	3.31	1,511,750	44
3	「竹藪」を竹林保全の普及啓発のための「モデル竹林」へチェンジ！事業	●0.5haの竹藪整理	NPO法人もりふれ倶楽部	・10月～竹林整備	3.15	956,744	60
4	間伐材利用による加茂ふれあい交流施設設置事業	●県産材使用交流施設の建設など	加茂遊学ファーム	・上棟、外装まで完了 ・11月完成イベント ・3月親子植樹事業	3.31	2,166,350	70
5	竹資源の有効活用技術の開発と実証	●竹パウダー化用植織機の導入	竹資源有効活用協議会	・機械導入済み	11.31	1,675,000	150
6	出雲神楽舞台島根県産材作成事業 出雲神楽出張前公演事業	●移動式神楽舞台の作成、公演	阿宮神能保存会	・10/16神楽公演 ・12/5神楽公演	12.5	564,060	12
7	砂防林植樹	●砂防林用抵抗性黒松の植栽	浜遊の森の自然を守る会	・2月植栽	3.31	909,200	72
8	ふるしき山プロジェクト(森林バイオマスの地域循環システムの構築にむけて)	●間伐材などの集材、チップ化、ポイラー利用	NPO法人緑と水の連絡会議	・9/18,19イベント実施	3.10	1,358,475	30
9	浮布広場整備事業	●県産材の東屋の整備など	池田地区まちづくり推進協議会	・環境省許可待ち	10.31	874,432	100
10	源流の里づくり	●アカマツ林の整備、ストーブ設置など	市木自治会	・10/23看板づくり ・10/31ペレットストーブ披露 ・11/21植樹	3.31	2,666,000	120
11	石見海浜公園の松林再生	●抵抗性クロマツ1,600本の植栽	浜田地方林業研究グループ	・12/11申請	11.30	2,804,225	160
12	森づくりは海づくりin浜田	●松枯れ跡地の整理、植栽など	森づくりは海づくりin浜田実行委員会	・10/30植樹イベント	10.31	2,150,812	170
13	林地残材の活用促進により弥栄の森づくり	●放置材用林内作業車の導入など	やさか森づくりの会	・10/30林業作業車活動	3.31	2,047,500	270
14	遠田海岸防風保安林整備事業	●抵抗性クロマツ600本植栽	安田地区連合自治会	・11月～区域の踏査 ・3月植栽	3.15	1,171,175	100
15	きれいな松林を育て次世代に残す運動IN大塚	●3.33haの下刈り、抵抗性クロマツ2,500本等の植栽	大塚自治会	・9月以降毎月活動中	3.31	951,194	450
16	ドングリ山を減ぼすな！次世代に引き継ぐ緑豊かな里山を守り育てる森づくり	●キクイムシ枯損木の伐倒、処理など	万葉公園友の会	・11/16植樹体験会 ・12月中旬被害木伐採 ・炭焼き体験	3.20	1,873,800	210
17	里山再生事業	●残土処理場跡を伐開・地拵し、地元住民による植栽	(社)原田愛郷社	・10月下旬地拵え ・11/14植樹イベント	3.31	713,000	55
18	ぬくもりのある図書館づくりで森づくりを！	●図書館へ県産材資料本棚の設置	海士町教育委員会	・10/2ワークショップ実施	10.31	1,690,000	15
合計						27,763,407	2,288

委託型

番号	取組の名称	平成22年度の事業概要	実施団体	実施時期	交付金希望額(円)	参加人数
1	道の駅本庄(公園)環境整備	●隣接する公園に野外卓を3基設置	道の駅本庄企業組合	7月完了。PRイベント実施	7.3	579,600
2	尾原ダム湖岸～紅葉の森プロジェクト	●放置林2ha整備、ウリハダカエデ等500本の植栽	雲南市	・10月～地拵え ・3月植樹	3.15	1,000,000
3	見晴らしの丘公園の防風林の保全、景観維持を目的とした植栽計画	●抵抗性クロマツ、サンゴジュ計200本の植栽	出雲市	・地拵え中 ・11/24植樹祭	3.31	1,000,000
4	浜田市の名木認定の木製標柱設置	●名木24本に県産材標柱の設置	浜田市	・作成開始	2.28	504,000
5	江津本町地区の歴史的建造物を活かした桜植栽事業	●県産材ベンチ30基設置など	本町・金田・島の星地区連合自治会	・ベンチ作成・設置済み	11.30	997,500
6	「名木・金谷の城山桜」周辺整備…荒廃竹林を花と紅葉の森へ…	●竹伐採0.53haと苗木430本の植栽委託	美都町金谷自治会	・11月～竹伐採・地拵え ・3月広葉樹植栽	3.25	574,350
合計					4,655,450	

水と緑の森づくり事業実施状況調査結果

平成 22 年 10 月 29 日

島根県林業課

1 調査日程と調査者

場所	年月日	調査者
松江管内	H22. 8. 5-6	藤田管理監、大石主任
雲南管内	H22. 7. 26-27	藤田管理監、杉本主任、大石主任
出雲管内	H22. 7. 20-21	杉本主任、大石主任
県央管内	H22. 8. 3-4	杉本主任、大石主任
浜田・益田管内	H22. 8. 9-11	藤田管理監、林企画員
隠岐管内	H22. 7. 28-29	前島 GL、林企画員、大石主任

2 県民再生の森事業

(1) 調査のポイント

- ・ 平成 17-18 年度実施の不要木伐採を行った森林は、下層植生の発達した森林となっているか
- ・ 侵入竹林の伐採を行った森林は竹が再発生していないか
- ・ 管理道は崩壊していないか
- ・ 樹下植栽木は生育しているか

(2) 調査結果

内 容	林内照度		下層植生		樹下植栽木		竹侵入		管理道	
	調査数	問題数	調査数	問題数	調査数	問題数	調査数	問題数	調査数	問題数
箇所数	44	3	44	3	5	1	5	5	4	0

- ・ 事業実施箇所は、林内照度が回復し、ほぼ良好な森林環境を保っている（写真-1）
- ・ 伐採前の本数が多い箇所では、本数伐採率 30%では林内照度が回復しなかった（写真-2）
- ・ 侵入した竹を伐採した全ての箇所で、竹の再侵入を認めた。不要木の伐採を行っており、林内照度が高くなったため、事業実施前より竹が繁茂している状況も認められた（写真-3）
- ・ 管理道の崩壊は認められなかった
- ・ 樹下植栽木の生育不良や下層植生に問題のあった箇所は、林内照度の低い地点で認められた



写真－1 林内照度が回復し、下層植生も回復した森林（隠岐の島町）



写真－2 事業実施後も成立本数の多い森林（大田市）



写真－3 再侵入した竹（浜田市）

3 森づくり・資源活用実践事業

調査件数 35件（平成17年度以降実施された事業は全160件）

（1）調査のポイント

- ・ 事業実施後の活動は継続されているか
- ・ 購入した資材や施設の維持管理はされているか
- ・ 水と緑の森づくり税のPR活動につながっているか
- ・ 活動して見えてきた課題

（2）実施状況確認の概要・課題

① 事業実施後の継続活動について

- ・ 森林整備活動においては、その後の下刈り作業などを含めてほとんどの団体で実施されていた
- ・ 施設整備においては、計画通りの県民の利用が望めない、あるいは運営主体が弱体化し、一部遊休施設となっている案件があった
- ・ 学校側は年間スケジュールが早めに決まるため、予約の遅れから森林教室などの行事が計画通り進んでいない例もあった
- ・ 機械導入については、購入前の調査が不足しており、稼働してみたら処理能力が大きく需要開拓が進まない、または予想していた仕様と違い、遊休化しつつある案件があった
- ・ 製材所の施設を有償で借りて木工教室を実施している団体があった。製材所は施設利用料も徴収でき、お互いに利点のある活動といえる。
- ・ 会員に継続的に参加してもらうために、作業後に茶話会を開くなどの「楽しみ」を重視し、活動している団体もあった

② 購入した資材や施設の維持管理について

- ・ 購入した資材や施設については、ほとんどの団体で保管維持がされていた

③ 水と緑の森づくりのPR活動について

- ・ 木工教室や下刈りをする際には水と緑の森づくりの意義などを話しながら作業をしている団体があり、水と緑の森づくり活動を草の根的に広げる望ましいケースであった
- ・ 完成した施設に水と緑の森づくり事業で設置した旨を示す看板やシールがない（劣化など含む）案件が多かった。

調査所感

- ・ 新規会員の加入
- ・ 施設や機械を継続維持する会員の継続参加
- ・ 植栽は人が集まるが、下刈りは参加が望めない
- ・ とにかく楽しみがなければ一般の人は集まらない など



写真－4 整備された竹林（出雲市）



写真－5 1年生時から使用している机（吉賀町）

平成 23 年度水と緑の森づくり事業予算要求の考え方

平成 22 年 10 月 29 日

島根県林業課

1 予算要求の考え方

第 2 期対策 2 年目となる平成 23 年度予算は、次の視点で要求する

- ① 事業の継続性の確保
- ② 事業実施状況等を踏まえた必要な事業の見直し

2 事業ごとの要求方針

事業	課題	考え方
再生の森事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 伐採前の本数が多い箇所では、本数伐採率 30%では林内照度が回復しなかった ② 竹の再侵入対策 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本数伐採率 30%以上の単価設定を検討 ② 森づくりボランティアの活用による竹の再伐採を検討
みーもの森づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設整備においては、計画通りの県民の利用が望めない、あるいは運営主体が弱体化し、一部遊休施設となっている案件があった ② 学校側は年間スケジュールが早めに決まるため、予約の遅れから森林教室などの行事が計画通り進んでいない例もあった ③ 機械導入については、購入前の調査が不足しており、稼働してみたら処理能力が大きく需要開拓が進まない、または予想していた仕様と違い、遊休化しつつある案件があった ④ 完成した施設に水と緑の森づくり事業で設置した旨を示す看板やシールがない（劣化など含む）案件が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 島根県森林インストラクターを派遣し、実施主体の強化を図る ② 採択は早くすることは難しいが、内示で実施できるよう検討を進める ③ 事前調査（体験）をさせるため、機械はリースも検討 ④ シール等の定期点検を呼びかける（県産木材を使う資料は県民への PR が大きな要素）
森づくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 県民への周知 ② 県民の活動をサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ① 大型イベントを見直し、県内各地で開催されている既存イベントへ参加する方向で検討 ② 森づくりサポートセンターの充実を図る